

通学路の更なる安全対策有識者懇談会（R4. 6. 16 開催分） 会議録要旨

通学路の更なる安全対策懇談会（以下「懇談会」という）の趣旨として、事務局より有識者の方々から他都市事例や新たな視点、アイデアなど様々なアドバイスをいただくことを目的とする旨を説明。

懇談会において、有識者の方々から、主に以下のご意見を頂戴した。

(1) 田辺通 6 交差点における対策について

- ・ 脇見による信号無視の場合、道路側で直接的に事故を防ぐことは難しいが、見通しを良くすることで、子どもが見えた時に気を付けようという気持ちが働くため、可能な限り見通しを良くすることが重要。
- ・ 線形による信号機の視認性に問題はないが、児童が通る交差点をより早く認識させるため、路面表示等によって、交差点上流でそれらを予告する対策もあり得る。
- ・ 横断歩行者の安全対策について、今回の事故とは直接的には関係はないが、本交差点の従道路から主道路へ西進右折で流入する車に対しても対策の余地があると考える。

(2) 検討の方向性について

- ・ 幹線道路交差点における事故類型・原因別の対策について、名古屋の中心市街地には該当しないが、主要な事故類型（車同士の出会い頭事故や右折車と直進車との事故）に対して、ラウンドアバウトも対策のひとつになり得る。
- ・ 交差点の対策について、通学路が片側 2 車線以上の幹線道路を平面横断する箇所抽出にあたり、これまでに蓄積されたヒヤリハットデータや学区からの意見を重ね合わせて、モデルケース的に取り組む方法もある。
- ・ ヒヤリハットマップについて、他都市において、自治体と企業が協力して、パソコンやタブレットを活用してヒヤリハット情報を持続的・効率的に収集し、ヒヤリハットマップを作成している事例があるので、参考にするとよい。
- ・ 安全教育について、これまでも学校内外で様々な指導が実施されているが、それらが実質的に活用できているかという点で、すでにある枠組みを活用していくことが重要。

(3) 今後の通学路の更なる安全対策の取組み・検討について

- ・ 本取組みの取りまとめについて、これまでの取組みを再確認して、実効性のあるものを厳選し、短期間にできる対策、中長期的なビジョンを整理していくことが必要。

上記の意見を踏まえ、資料 8 - 1 の内容について、今後作業部会にて関係各局で共有しながら、検討を進めていくこととした。